

編集後記

世の中が急に物騒になってきた。2001年9月11日以来の世界の動きであるが、特に国内では、昨年の現政権発足後、急速にその傾向を強めている。上田会長のエッセイ「美しい国の教育について」は、いじめも銃乱射も、政治家が暴力や戦争を否定しない限りなくならないとし、日本はアメリカの言いなりに、憲法を改正して日米のための集団的自衛権を行使できる武装国家になるべきではなく、唯一の被爆国として、「絶対平和」と「万人の幸福」と、さらに「自然との共生」を大理念として掲げ、北朝鮮とも経済、スポーツ、芸能をテコに国交正常化を進めるなら、核の不安も拉致も解決できようと、大胆な提言を行っている。また政府がこれらの理念を掲げるとき、教師も生徒も情熱を抱いて教育や勉学に邁進でき、教育界も社会も救われようと論じている。だが、政府が世論に耳傾けないとき、国民にとっての唯一の意思表示の機会は、選挙ということになるであろう。

さて、すでに学会ホームページでお知らせしたように、本学会の名誉会員として昨年から本年にかけて、荒井良雄教授、尾崎寔教授、松村眞一教授をお迎えできた。荒井教授は昨年、『R.H. ブライスの人間観』（北星堂）を刊行され、本学会大会での特別講演は本号に収録させていただいた。また尾崎教授は本号から論文掲載をはじめてくださった。また村松教授は前号に論文を掲載されたが、本年、大部の翻訳『マシュー・アーノルド伝』（ニコラス・マレー著、英宝社）を上梓された。本号にはまた、名誉会員、山波言太郎氏の特別講演も収録させていただいた。

また本学会創立以来の顧問、秋山正幸教授が処女小説『矢よ優しく飛べ』（南雲堂）を出版された。日大大学院のホームページに上田会長の推薦文が掲載されたので、さきに本学会『メール会報』でご紹介した。秋山教授には、来る10月28日の学会大会での特別講演をお願いしてある。会場は市谷の日本大学会館901会議室。皆様のご来場をお待ちしている。

昨年博士号を取得された会員、宮西ナオ子氏が、その論文の一部をまとめて『能楽と女性』（檜書店）として出版された。また本年博士号を取得された会員、石井洋子氏が、その小川国夫論の一部を、本号に掲載してくださった。石井さんは76歳での博士（国際関係）の学位取得である。今春は会員の田原洋樹氏も博士（総合社会文化）の学位を取得された。会員諸氏のますますのご活躍を期待する。

上田会長の本年の市谷ゼミでは、毎回、「科学と精神文化の調和と融合」が論議されている。また上田会長作の『英語能：リア王』の謡いの稽古も毎回行われている。拡大ゼミなので聴講自由、どなたでも参加できる。日程は学会事務局（菊地：2001c03@gssc.nihon-u.ac.jp、電話：042-644-6813）にお問合せ下さい。

ところで、名誉会員の観世榮夫師が6月8日に亡くなられました。享年79歳。日本語『能・ハムレット』の演出者の一人でもありました。謹んでご冥福をお祈りします。（編集子）